

パネル展のごあんない

祝“生誕”250年

さいとうしゅうほ 齋藤秋圃

—— 太宰府の絵師調査事業の成果報告をかねて ——

幸府画報

号 外

2022年夏
(令和4年)

発行
太宰府市教育委員会
文化財課



バックナンバーはこちらから

絵師調査事業のあゆみ

1997 (H9) 以前

* 『太宰府市史』の為の作品調査が行われる

1998 (H10)

* 『太宰府市史—建築・美術工芸資料編』刊行

* 太宰府市文化ふれあい館特別展示「太宰府の絵師—齋藤秋圃・吉嗣家・萱島家の絵師たち」開催

2003 (H15)

* 齋藤家から画稿が見つかり、発見に関わった近畿大学に於いて一次調査が行われる

2016 (H28)

* 太宰府の絵師調査事業開始

2018 (H30)

* 齋藤家資料調査報告書刊行

* 齋藤家資料が市の指定文化財となる

* 特別展「太宰府の絵師 齋藤秋圃」開催

2019 (R1)

* 齋藤秋圃作品集中調査

* 吉嗣家資料調査本格化

2020 (R2)

* 広報誌『幸府画報』発刊

* 絵師調査事業パネル展開催

2021 (R3)

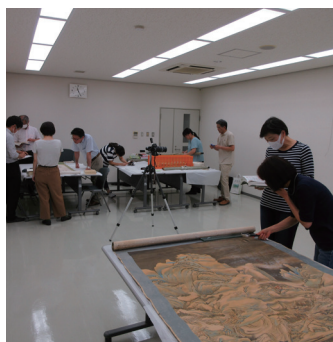
* 吉嗣家資料【印章編】調査報告書刊行

* 特別展「秋圃と拝山」展開催

2022 (R4)

* 齋藤秋圃生誕250年記念パネル展開催

* 吉嗣家資料【書画編】調査報告書刊行
(年度末予定)



調査風景

パネル展開催にあたり

太宰府では江戸後期から昭和にかけて、齋藤家・吉嗣家・萱島家の三家の絵師が活躍し、今も市内外の寺社などに多くの作品が遺されています。本市では、絵師の功績を調査し、各家に伝わる資料を後世に遺すため、平成26年度より太宰府の絵師に関する調査事業を開始し、これまで、報告書の刊

行、調査成果をもとにした展覧会を実施してきました。

今年には齋藤秋圃が生誕してから250年を迎える節目の年となります。吉嗣家・萱島家に影響を与え、後の世に「筑前四大画家」と評された秋圃については、その半生が謎に包まれていましたが、齋藤家資料の発見により生年が明らかになり、他にも本調査事業によりその活動や交友関係などについて新たな知見が得られています。

秋圃は精緻な筆遣いとともにユーモラスな人物描写が特徴で、生前から人気を博していました。本展示ではこれまでの調査で明らかになった秋圃のプロフィールに加え、秋圃が遺した作品を紹介いたします。



展覧会「秋圃と拝山—太宰府に偉才あり—」

会期・会場

7/2(土)～31(日)

太宰府館2階ギャラリー

(太宰府市幸府三丁目2-3)

8/2(火)～14(日)

太宰府市文化ふれあい館エントランスホール

(太宰府市国分四丁目9-1)

8/15(月)～9/2(金)

太宰府市役所市民ギャラリー

(太宰府市観世音寺一丁目1-1)

メイジ

齋藤秋圃の人物像



86歳の自画像
(齋藤家資料《諸画貼交屏風》)

生没 安永元年—安政6年(1772—1859)

出身 京都

幼名 市太郎

姓名 葵衛、齋藤惣座衛門

画号 葵衛、草行、双鳩、亦輔、茗哉、瑞氣齋

家族 秋圃、土筆翁など

父 池上相常(公家の醍醐大納言息子)

母 田中氏の子

先妻 雪(秋月家中宮井久米右衛門娘)

子 璘太郎、常次郎、梅圃

後妻 富(太宰府神社祀官別当菅原信實法眼姉)

子 市三郎、笑子、久子

略歴 30歳前後 大坂新町遊郭の翫間(座興をする男芸者) ↓ (34～57歳) 筑前秋月藩御抱え絵師 ↓ (57歳以降) 隠居して町絵師となる ↓ (70歳頃) 没 太宰府天満宮近くに住み絵を描く

画系 円山四条派、鋏形蕙斎の学習や影響があり、中国清代の画人江稼圃を慕い交流もあつた

弟子 齋藤梅圃(秋圃嗣子)、吉嗣梅仙、萱島鶴栖など

メモ 博多聖福寺の僧仙厓と仲良し

能を好み、俳諧にも造詣が深かった

逸品探訪

号外版



《群鶴図》1幅 77歳作
紙本着色 掛幅装 121.6 × 56.0cm
長崎市・史跡料亭花月蔵
紅白にも見える二本の松と無数の鶴を描いためでたい図。花鳥図の佳品。肥前にはまだまだ発掘の期待大。



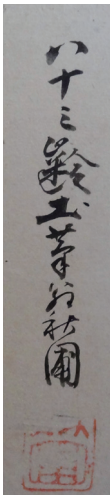
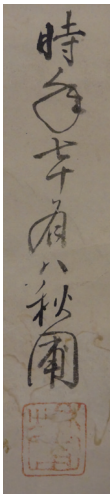
《群仙図屏風》6曲1隻 80歳作
紙本着色 屏風装 148.1 × 362.2cm
東北歴史博物館蔵



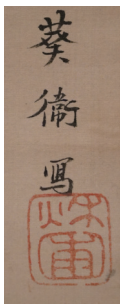
《恵比寿大黒図》1幅 78歳作
絹本着色 掛幅装 54.5 × 85.7cm
佐賀県有田町・個人蔵
2022年に情報提供を受けた新出作品。有田にはほかにも秋圃80歳前後の作品が散見される。この頃に当地の人々と交流があったことがうかがえる。

個人所蔵者のゆかりによって、東北歴史博物館の所蔵となった逸品。ダイナミックな構図や確かな画技など、秋圃の特徴がよくあらわれている。

絵師調査事業の報告書や展覧会での発信により情報提供を受けて確認された作品を3件ご紹介。いずれも晩年の作ですが筆力があり感性ゆたかな逸品です。作品の掘り起こしによって、絵師研究のさらなる進展が期待されます。(井形栄子)



「秋圃」の印が捺されています。葵衛は秋圃が名乗った雅号(本名のほかにつける別



が判断する材料にもなります。(木村純也)

秋圃のサインいろいろ

絵画作品が出来上がると、作者は証として自身の名前をサインし、捺印することで作品の完成を示しました。署名から印までを含めて落款(らくかん)「落成款(らくせいかん)識(しき)の略」といいます。

号)の一つで、若い時期に使用していたものです。左上の画像は「時年七十有八秋圃」とあり、雅号は使用されていません。左下の画像は「八十三歳土筆翁秋圃」とあり、晩年に用いられた「土筆翁」という号が書かれています。

たくさんいちまい 画稿鑑賞

画稿調査は地道なパズル



齋藤家資料から毎回「いちまい」の画稿を採り上げ紹介しているこのコーナー。実は必ずしも1枚ではなく、複数の紙が合わさっているものが少なくありません。たとえば左写真の《鹿図》は9枚のパーツからできていますが、実際は糊がはがれていて、発見された当時は箱の中でばらばらとし

た状態でした。調査ではそれを1枚1枚計測して写真をとって、パソコンに取り込んだ画像を見ながら、絵柄やつながる線を探してゆきます。答えの見えないパズルのようですが、こうした地道な作業によって当初の画面が復元され、より正確な情報を得ることができるようです。(井形栄子)